

今まで知ろうとしなかった世界 ～これから自分ができること～



		畑中 剛 青森県立南部工業高等学校 工業（建築科）	
教科	総合的な学習の時間 4時間	対象	高校2・3生126名、中学1・2・3生152名、 小学5・6年生58名

I 実践の目的

事前に実施したインドネシアについて、本校のみならず、近隣の小学校、中学校にも協力を仰ぎ、子供達の意識調査をしたところ、誤った認識や先入観を持つ児童生徒が多いことに気づいた。また、2004年に起きたスマトラ島沖地震の認知度も、当然ながら学年が下がるにつれて明らかに減少している。

東日本大震災に見舞われた東北でも、復興に向けて日々沢山の方がたゆまぬ努力を続けている今日、同じように震災の被害から復興を遂げようとしているインドネシア・アチェの姿を、被害を受けたことすら知らない児童生徒達に、ありのままの現状を伝えると共に、「今、自分に何ができるか」、「国際協力・国際理解について、これから自分にどんなことができる大人になれるか」を考えて行動することを、授業を通じて伝えたい。

また、興味関心のある国を自由記述で調査したところ、やはり上位に並ぶのは先進国ばかりであった。メディアの露出や、スポーツで世界を席卷する国といえば、やはり先進国が名前を連ねることは必至で仕方ない部分もあろうが、開発途上国へ目を向ける意識を持たせることも大変重要だと考え、授業に取り入れた。

II 授業の構成

第1時限	事前	総合的な学習の時間①	インドネシアについて（アンケート調査） ※小・中・高校で同じ内容のアンケートを実施
第2時限	事後	総合的な学習の時間②	研修報告会 ・青森県立南部工業高等学校 ・南部町立南部中学校 ・南部町立向小学校 にて、それぞれ実施
第3時限	事後	総合的な学習の時間③	フォトランゲージ 「インドネシアの衛生について①、②」 「スマトラ島沖地震を乗り越えて」
第4時限	事後	総合的な学習の時間④	世界が100人の村だったら（36人バージョン） 「今まで知らなかった世界の現状を知ろう」

Ⅲ 授業の詳細

(1) 第1時限：インドネシアについて（アンケート調査）

今回、インドネシアへの教師海外研修参加が決定した時に、まっ先に脳裏をよぎったのは、「自分がどれくらいインドネシアについて理解しているだろうか？」ということであった。また担当する生徒はインドネシアについて、どれほどの認知度があるかであった。私自身は研修への大きな期待を胸に参加できるが、実際に生徒自身は海の向こう側の数ある国のなかの一つとして捉え、興味関心もなければ情報を提供されても知識として残らないのではないかと考えた。

そこで、出発前にインドネシアの情報を私自身が調べつつ、生徒の実態調査も実施し、それを私自身の教材として手に持ちインドネシアへ渡りたいと思い、アンケートを実施することにした。また、年代が分かれることにより変化する数値も事前に知ることにより、現地での調査にも役立てたいという思いから、近隣の小学校、中学校にもアンケート調査への協力を要請し、快く快諾を頂戴した。また、帰国後は研修報告会を開催させて頂くことも依頼し、私自身が見聞きしたことを報告する場面も設定して頂いた。

小・中・高校で実施したアンケート調査は以下の通りである

みなさん、こんにちは。

突然ですが…私、Indonesia（インドネシア）へ行ってきます

この度、JICA（ジャイカ）主催の「教師海外研修」に参加することになりました青森県立南部工業高校の畑中 剛（はたなか つよし）というものです。

派遣国はインドネシアに決定しました。はじめてのインドネシア渡航になります。

「いったいどんな国なんだろう？」「会話は通じるのか？」という不安もありますが、幼い頃からの願いが叶い、少しの期間（2013.12.21～2013.12.30）ですが、異国の文化や食事、異国情緒漂う街並み、そして一生懸命勉強する児童・生徒に会いに行ってきたいと思えます。

そこで、南部町で学習する皆さん（向小学校、南部中学校、南部工業高校）が、インドネシアという国についてどんな知識があり、どんな印象を持っているのかという調査をし、研修するための資料を作成したいと考えております。

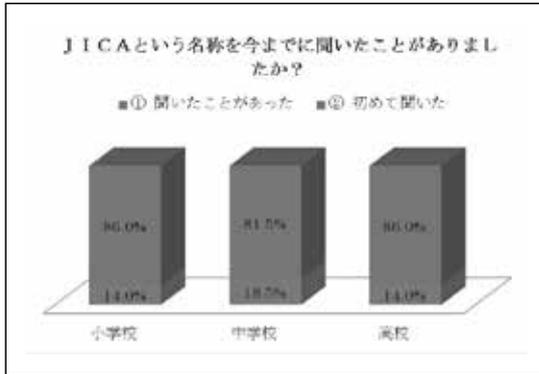
次ページから始まる簡単な質問に答えて頂きたいと思えます。改めて調べたり、学習する必要はなく、今現在知っている（聞いたことがある）範囲で構いませんので、気軽に答えて下さい。

～ 意識調査 ～

回答用紙に①～④の番号を記入下さい

問1 JICA（ジャイカ）という名称を今までに聞いたことがありましたか？

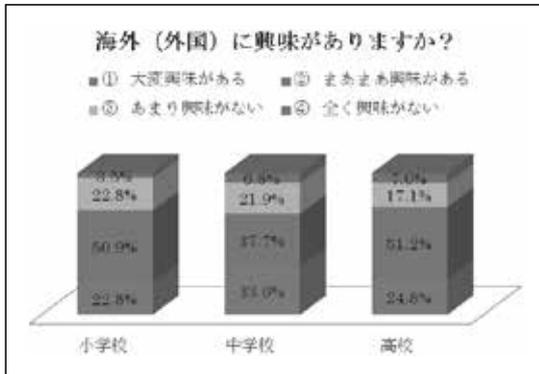
- ①聞いたことがあった ②初めて聞いた



※ JICA の認知度は校種により大きな差はなかった。本校での認知度の低さに驚いた。

問2 海外（外国）に興味がありますか？

- ①大変興味がある ②まあまあ興味がある ③あまり興味がない ④全く興味がない



※海外に対する興味関心度も校種により大きな差はなかった。

問3 問2で①、②と答えた人に質問です。自分が興味のある国はどこ国ですか？複数答えても構いません。

国名	総計	小5	小6	小合計	中1	中2	中3	中合計	高2	高3	高合計
アメリカ	121	8	19	27	21	10	18	49	27	18	45
イギリス	79	5	8	13	17	9	13	39	15	12	27
フランス	78	2	15	17	13	9	13	35	15	11	26
イタリア	73	1	4	5	13	14	12	39	11	18	29
オーストラリア	33		4	4	6.5%	11	3	20	13.2%	8	1
カナダ	28		4	4	6.5%	5	9	9	23	15.1%	1
ロシア	25	1	5	6	9.7%	3	2	7	12	7.9%	4
ドイツ	24		4	4	6.5%	1	3	7	11	7.2%	4
スペイン	22		2	2	3.2%	1	5	4	10	6.6%	6
韓国	18	3	2	5	8.1%	2	2	5	9	5.9%	4
インドネシア	3	1	1	2	3.2%		1		1	0.7%	

※上位を占める国名は先進国が多い。インドネシアに興味持っている児童生徒は極少数であった。

問4 インドネシアという国はどこにありますか？

- ①インドの西側 ②アメリカの南側 ③日本に最も近い島国
④太平洋とインド洋に挟まれた島国

問5 インドネシアの面積はどれくらいですか？

- ①日本の0.8倍 ②日本と同じくらい ③日本の2倍 ④日本の5倍

問6 インドネシアの人口はどれくらいですか？(ヒント：日本の人口は約1億2600万人)

- ①7000万人 ②1億1000万人 ③1億5000万人 ④2億3000万人

～中 略～

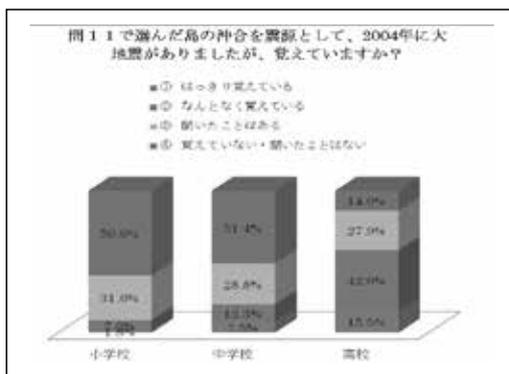
問11 インドネシアに属する島はどれですか？

- ①ルソン島 ②スマトラ島 ③マダガスカル島 ④イースター島

～中 略～

問17 問11で選んだ島の沖合を震源として、2004年に大地震がありました。覚えていますか？

- ①はっきり覚えている ②なんとなく覚えている ③聞いたことはある
④覚えていない。聞いたことはない



※やはり世代別では、スマトラ島沖地震の記憶として残っているのは高校生が断トツで多い。小学生でも知識を持っている児童がいる。

問18 問17で①、②、③を選んだ人に質問です。この大地震や、この大地震で引き起こされた大津波により多くの人命が失われました。どれくらいの方が死亡・行方不明になったか知っていますか？

- ①約8000人 ②約2万8000人 ③約5万3000人 ④約23万人

問19 インドネシアについて知っていることがあれば、何でも書いて下さい

	合計	小5	小6	小合計		中1	中2	中3	中合計		高2	高3	高合計	
全く知らない	249	16	22	38	61.3%	37	34	33	104	68.4%	55	52	107	82.9%
暑い	14	1		1	1.6%		2	7	9	5.9%	4		4	3.1%
島国	11					4	2	3	9	5.9%		2	2	1.6%
東南アジアに属する	7					1	3		4	2.6%	1	2	3	2.3%
島が沢山ある	4							1	1	0.7%	3		3	2.3%
カレーが有名	3	1	2	3	4.8%									
食しい	3	1		1	1.6%		2		2	1.3%				
肌が黒い	3	1		1	1.6%			1	1	0.7%	1		1	0.8%
世界遺産がある	3		1	1	1.6%	1			1	0.7%	1		1	0.8%
熱帯地方	3		1	1	1.6%						2		2	1.6%

※全く知らないという回答が圧倒的に多い。中にはインドと混同している回答が目につく。

問20 インドネシアについて知りたいことがあれば、何でも書いて下さい

カテゴリー		合計	小5	小6	小合計		中1	中2	中3	中合計		高2	高3	高合計	
食事	どんな食事を摂っているのか	54	17	9	26	41.9%	3	6	6	15	9.9%	9	4	13	10.1%
文化	どんな文化があるのか	11	2	1	3	4.8%		3		3	2.0%	3	2	5	3.9%
自然	どんな動物がいるのか	10	1	5	6	9.7%	1		1	2	1.3%	1	1	2	1.6%
生活	どんな特産品があるのか	8		2	2	3.2%	1	1	2	4	2.6%	1	1	2	1.6%
生活	どんな生活を送っているのか	8		3	3	4.8%	1	3		4	2.6%	1		1	0.8%
観光	有名な観光地は	8	1	1	2	3.2%			1	1	0.7%	3	2	5	3.9%
文化	盛んなスポーツは	7		5	5	8.1%		1		1	0.7%		1	1	0.8%
気候	どんな気候なのか	7	2		2	3.2%	1	1	3	5	3.3%				
日本	日本のことをどう思っているか	6	4		4	6.5%						2		2	1.6%
食事	有名な食べ物は	6		5	5	8.1%		1		1	0.7%				

※食事、生活の違いについて知りたいという回答が目立つ。中には「日本のことをどう思っているのか?」という回答もあり、客観的に日本の印象を知りたいという回答もあった。

(2) 第2時限：研修報告会

研修を終え、帰国した後にアンケートに協力頂いた小・中学校を含め、本校と合計3回の研修報告会を実施した。アンケート結果を知らせると共に、校種別にプレゼンを用意し、興味関心があった部分をスライドにまとめ発表した。



南部工業高校での研修報告会



南部中学校での研修報告会



向小学校での研修報告会



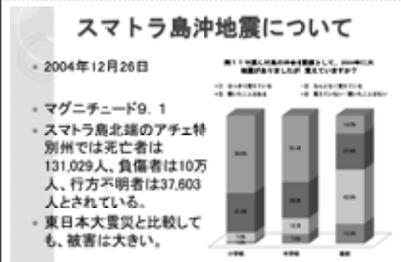
報告会スライド表紙

意識調査（アンケート）その2

・海外（外国）に興味がありますか？

	小学校	中学校	高校
大変興味がある	22.8%	33.6%	24.8%
まあまあ興味がある	50.9%	37.7%	51.2%
あまり興味がない	22.8%	21.9%	17.1%
全く興味がない	3.5%	6.0%	7.0%
	57名	146名	129名

海外に対する意識調査



スマトラ島沖地震について



長閑な農村風景



食生活の報告



インドネシアの学校を訪問

 <p>エスケープビルディング</p>	 <p>カツオ節で復興する女性団体</p>	 <p>多くの開発途上国のうちの一つ 別な支援を求めている国がある</p>
<p>日本からの支援で 建設された建物</p>	<p>日本からの支援で 生計を立てる</p>	<p>インドネシアは 開発途上国の一つ</p>
 <p>自分が持つ「地球市民」の TERRITORY/テリトリーとは？ 地球市民？ それとも日本国民？ いやいや地球市民？</p>	 <p>2013.12.25 PM 6:54</p>	 <p>今年で40歳、ようやくスタートラインに…</p>
<p>自分のテリトリーを どこまで広げられるか？</p>	<p>一生懸命日本語で歌う 子供達に感動しました</p>	<p>同じベクトルを持つ 仲間に出会えた</p>

報告会を聞いた児童・生徒の感想（抜粋）

小学生の感想

- ・将来医者や看護師になれたら、外国へ怪我をした子供達を助けに行きたいです。
- ・家に帰って、今日聞いたインドネシアの話をお父さんやお母さんにも話して教えてあげたいと思いました。
- ・津波で親を亡くしてしまった子供達も「おもいやりの歌」を歌っていて感動した。親が亡くなくても前向きに生きようとしている姿が凄く思った。日本の歌が外国で歌われていて凄く嬉しかった。
- ・女の子が暑くても頭にスカーフを巻いて生活しなければいけないことが印象的だった。
- ・日本がもっと困っている国を支援して、happyな地球に生まれ変われば良いなと思った。
- ・外国で苦しんでいる国があると知って、その国を助けたいと思いました。
- ・貧しい生活をしている人々を救いたいと思った。津波で命を奪われた人たちの気持ちが可哀想だと思った。
- ・アメリカに行きたいという気持ちが強かったけど、インドネシアにも少しは行きたいという気持ちも出てきました。
- ・インドネシア人が日本語を勉強しているように、僕自身も英語をもっと勉強したいと思いました。
- ・水を買って飲むことは初めて知った。日本語で歌を歌っているのを聞いてとても感動した。
- ・将来の夢をしっかりと持って、誰かの役に立てるような大人になりたいと思った。

中学生の感想

- ・インドネシアが津波の被害にあっていたのを初めて知った。インドネシアの小学生や中学生が日本語を勉強していることも初めて知った。

- ・外国人が日本をどのように思っているのかすごく興味がある。今までは海外に行きたいと思っていたけど、話を聞いて外国に行きたくなりました。
- ・今まで海外に興味がなかったが、興味を持つことが出来た。これからは海外の暮らし、文化、経済に目を向けたい。
- ・どこの国でも我が子を思う気持ちが変わらないんだと思った。日本をこんなに好きでいてくれるのに、私はインドネシアのことにあまり興味を持っていなくて申し訳ないと思った。
- ・報告を聞いて、将来海外へ行って人を助けたいなと思った。日本のことが好きと聞いて本当に嬉しかった。今はまだ何も出来ない中学生だけど、自分に出来ることをやっていこうと思った。
- ・ひとつの国の話を聞いただけで世界のおもしろさを感じる事が出来た。「今できること」は何かを考えてこれから生活していきたい。
- ・今までは先進国しか興味がなかったが、報告を聞き発展途上国に自分が行って、すこしでも支援したいと思えるようになった。僕の夢は世界を飛び回り、仕事をする事です。そして貧しい国を支援する事です。
- ・地球という同じ屋根の下で暮らしている僕たちは、どこの国でも家族であり、助け合いながら生きていかなければならないものだ強く感じた。
- ・実際の写真を見て日本とは違った魅力がある国だと思った。子供達の笑顔はキラキラしていて会ってみたいと思った。もっともっとインドネシアを知りたくなった。
- ・地球市民という考え方について、これからは世界規模で協力していかなくてはいけないと思いました。

高校生の感想

- ・自分と年齢の変わらない生徒が、将来のことについて明確に考えていてすごいと思った。
- ・夢のきっかけを見逃さないようにしたい。1日を大切に過ごしたい。
- ・日本語で歌を歌っている生徒の動画を観たら涙が出てきた。とても感動した。
- ・狭い地域の同じ風景をみるのではなく、世界の広い風景を実際に見てみたい。
- ・先生のでっかい夢の話聞いて、夢を持つことは大事だと思った。
- ・日本は多くの国と関わりがあり、沢山の活動があることを知らなかった。以前より海外への興味が高まった。
- ・自分の考えが少し変わった。地球市民であるという意識を持って世界の人々と共存することを考えていきたい。
- ・自分たちの海外に対する興味の低さに驚いた。先進国は知っていても開発途上国のことはあまり知らなかった。
- ・これから日本は平等な社会になるようにしなければならぬと感じた。その為に自分も出来ることをしたいと思った。
- ・スマトラ沖地震の時に募金をした記憶が戻ってきた。動画や写真を見て募金に参加して良かったと初めて思った。
- ・国が豊かになるにつれ、ゴミ処理問題など、まだまだインフラ整備が追いついていないと思った。

- ・今までは観光目的で海外に行きたいと思っていたが、外国に行って沢山の人と巡り会いたいと思えた。
- ・日本がこれだけ好かれているならば、より好かれる国になる努力をするべきだと思う。

(3) 第3時限：フォトランゲージ：「インドネシアの衛生について①、②」、「スマトラ島沖地震を乗り越えて」

今回の授業でフォトランゲージに使用した写真は以下の3枚である。今までにフォトランゲージというワークショップに参加したことがない生徒だったため、趣旨を説明すると共に、グループに分かれての活動について注意点を説明した。本校は近隣市町村に八戸市があり、生徒は小学生の頃から社会科見学などで魚市場を訪れる場面が多いと聞き、水産業に対する知識に富むと判断し、インドネシア・アチェの魚市場の写真を2枚提示した。

また、スマトラ島沖地震から9年が過ぎた2013年12月26日の朝のお祈りの様子を撮影した写真を提示し、写真から読み取れる情報をグループごとに話し合わせた。

使用した写真	グループから発表された意見
	<p>オートバイしか見えない バイクのナンバーの桁が日本より多い 電線が多い 高い建物が無い 船が見える 山が見える ホンダのバイクがある みんなサンダルを履いている 暑そうに見える 人が多い 舗装されていない 洗濯物が干してある</p>
	<p>水揚げされた魚を買おうとしている 服装が日本と同じ 魚の数が少ない 鮮度が悪い 市場のようだ 男ばかり目立つ 魚が直接地面に置いてある 氷が無い 不清潔に見える コンバースのスニーカーを履いている</p>

使用した写真	グループから発表された意見
	<p>「いろはす」がある お祈りする場所に見える お祈りをしているようだ 男性が多い イスラム教徒に見える スピーカーがある 白い服を着ている 公園のような場所 iPad を使っている人がいる</p>

三枚の写真を使用したフォトランゲージを展開した後に、写真の種明かしをした。上の2枚は市場の写真で、八戸市の魚市場との比較について説明した。また誰もが自由に魚を売り買いできるシステムと、炎天下のもと、ブルーシートの上に広げられた魚を見た時の思いや、地元の人々の活気ある掛け声について説明した。

最後の写真は、私たちが写真の中に収められていることと、インドネシア人と一緒にお祈りしたことを伝えた。女性が写真に写っていないのは、男女でお祈りする場所が別々だったこと、後ろに見える芝生の下には津波の被害にあった遺体がたくさん埋められていること、共に大きな震災に見舞われた後に、日本とインドネシアの支援体制について伝えた。

		
<p>一枚の写真から得た情報を話し合うグループワーク</p>	<p>グループで話し合われたことを発表</p>	<p>写真についての解説</p>

授業の感想

- ・東日本大震災の時に、過去に支援してもらった日本を支援しようとしてくれたインドネシアの話を知り、災害を通して国際交流が盛んになっていることは、お互いに地球に共存する人間として、とても重要だと思った。
- ・今はまだ開発途上国かもしれないが、貿易国として重要だと思うし、震災を通じてお互いに支援し合うように、今後もインドネシアとの国交を大切にしていきたいと思います。
- ・一枚の写真から日本とインドネシアの違いをたくさん知ることが出来た。衛生的な問題は一刻も早く解決し無ければならないと感じた。
- ・当たり前だと思っていた私たちの身の回りのことが、海外へ行くと当たり前ではないことを知った。もっと海外のことを知りたいと思った。

- ・それぞれの国で文化や言語の違いはあっても、お互いに理解し合えれば共存できることを知った。
- ・他国へ行かなくても、一枚の写真からその場の雰囲気や、風土などが読み取れて、写真の与える印象は強いんだと感じた。
- ・日本との衛生的な違いや、国同士の関わり合いは勉強になった。今後は宗教の違いや文化の違いも学習したい。
- ・日本語で歌を歌っている生徒の動画を観たら涙が出てきた。とても感動した。
- ・狭い地域の同じ風景をみるのではなく、世界の広い風景を実際に見てみたい。
- ・先生のでっかい夢の話聞いて、夢を持つことは大事だと思った。
- ・日本は多くの国と関わりがあり、沢山の活動があることを知らなかった。以前より海外への興味が高まった。
- ・自分の考えが少し変わった。地球市民であるという意識を持って世界の人々と共存することを考えていきたい。
- ・自分たちの海外に対する興味の低さに驚いた。先進国は知っていても開発途上国のことはあまり知らなかった。

(4) 第4時限：世界が100人の村だったら (36人バージョン) 「今まで知らなかった世界の現状を知ろう」

校内研修報告会、フォトランゲージを実施したクラスにおいて、インドネシアの現状のみを伝えるのではなく、世界的な現状を伝えることが肝要だと考え、最終的に「世界が100人の村だったら」というワークショップを実施した。生徒は今までに考えることもなかった実情を目の当たりにし、今の生活がいかに恵まれ、当たり前だと思っていた環境が、他の国ではそうではないことを知り、世界のためにどうすれば自分が役に立てるのか、また、支援の在り方について考える授業となったようだ。

生徒に配布した資料は以下の通りである。

世界の人口について～クイズ形式～

クイズ_1：世界の人口は、現在何億人くらいいるでしょう？

- ①62億人 ②72億人 ③82億人

クイズ_2：1960年の世界の人口はどれくらいでしょう？

- ①20億人 ②30億人 ③40億人

クイズ_3：2060年の世界の人口はどれくらいでしょう？

- ①86億人 ②96億人 ③106億人

大陸ごとに分かれてみよう！

役割カードを配布します。その役割カードの「4. 地域」のところをみて、それぞれの大陸に分かれてみましょう。

- アジア
- アフリカ
- ヨーロッパ（ロシア含む）
- 北アメリカ
- 南アメリカ（中米含む）

大陸ごとのエリアに集まってください。

栄養不足と肥満の問題を考えてみよう。

役割カードの「4. 地域」のところをみて、どんなフルーツが描かれていますか？

- バナナ
- リンゴ
- ミカン
- いちご

該当する大陸のエリアの中で指示に従ってください。

世界の言葉で「こんにちは」

役割カードの「5. 言語」のところを確認してください。教室内で同じ言語で話す人を「6. あいさつの言葉」で挨拶しながら探して歩きましょう。探し当てた人はグループになってください。どんな言語を話す人が多いのでしょうか？

文字が読めないということは？

提示した文字を読める人は、その指示に従ってください。

所得が多いのは誰ですか？

役割カードの右側に記してあるマークを確認してください。

- △
- □
- ☆
- ♥
- ○

それぞれのマークごとに分かれてみましょう！

ワークショップは終わりです。最初の席に座ってください

プリントの「世界がもし100人の村だったら EDITION 2008」を読んでもみましょう。



世界地図上に配置されて人口密度を体感してみる



富の財産に見立てたビスケットを手にする生徒



授業の感想をまとめている

授業の感想

- ・世界が平和になるためには、人間一人一人の考え方を少しでも変える必要があると思った。
- ・こんな自分でも何か出来ることがあるならば、その一つを実現させようとするのが大切だと思った。
- ・これからは自分の幸せだけを考えるのではなく、世界にも目を向ける姿勢が必要だと感じた
- ・今生きていられることを当たり前だと思わないで、いろいろな人に感謝して生きたい。
- ・困っている人を無差別に助けたい。同情からの良心にはなりたくない。
- ・世界に目を向けず、今までの生活より便利なものを求めていたが、その事は凄く未熟で視野が狭いことだと感じた。

IV 実践の成果

「先生、何をしにインドネシアに行くんですか？私だったら怖くて行かないですよ」

研修に出発する前に、生徒に言われた言葉だ。現在授業で接している本校の生徒の大半は同じような思いで、教師海外研修に参加することになった私を見ていただろう。生徒の気持ちの中には海外は不安がたくさんあり、特に開発途上国となれば敬遠する世界だという考え方が主流だったと思う。

アンケート調査をした結果も、先進国への意識は高くても開発途上国に興味を持つ生徒は少なく、知識や情報さえもないのが事実であった。

研修から帰国後に行った研修報告会では、普段の授業からは想像もつかないような真剣な眼差しで耳を傾ける生徒が多く見られ、時間超過した報告会だったが、生徒の感想には一様に「とても勉強になった。今まで自分に見えていた世界が、いかに限られた世界のことで、私たちの知らない国やその環境、そして地球市民として今後自分たちは自分のことだけでなく世界に目を向けることが必要だ」という内容が記されていた。

また、フォトランゲージを始めとする実践授業を繰り返す中で、生徒達は現在の自分の置かれた環境を顧みると共に、「果たして自分たちだけが幸せな思いをしていて良いのだろうか」、「宗教や文化は違っても、困っている人がいるのであれば、助けるべきではないか」と真剣に考えるように変化していった。

現在は工業の知識を習得している本校の生徒達が、将来国内に留まらず、海外へ進出する企業の一員として、もしくは海外青年協力隊などの JICA 活動の一員、さらに高い意識を持ち海外へ支援する NGO など団体の一人として、海を越える可能性はあるのだろうと思う。また、そのような気持ちで職業を選択する時期があるかもしれない。語学や生活環境の変化など、様々な困難もあるだろうが、それらを自分の力で乗り越えて挑戦し、一人の社会人として自立するだろうという生徒の展望を強く感じた。

最後に、冒頭で私にインドネシアへの渡航について質問してきた生徒の感想を示す。

海外なんて最初は興味がなかったのに、先生の話聞いて沢山の興味が出てきました。私が想像していたインドネシアという国は貧しく、あまり発展していない国だと思っていましたが、実際には大きなビルもあり、大型バスも走っていました。また、日本に興味を持ち、日本語を勉強しているインドネシアの高校生の話を聞き、さらに東日本大震災のときに、私たち日本国民のためにお祈りを捧げてくれたと言ったことを聞き、とても感動しました。

私は将来、自分で会社を設立したいと考えています。その時は海外や開発途上国のことを色々調べ、海外へ事業を展開し、支援することも考えられる社会人になりたいと思います。

V 課題

研修終了後、実践授業の中で、生徒の興味関心をもとにフォトランゲージの写真を選定したり、意識の高さに合わせたりした授業展開は回数を重ねるごとに、手応えを感じられるようになったものの、生徒に定着させるためには定期的に授業を実施する必要があると痛感した。

しかし、本校の現状に照らし合わせてみると、年度当初に設定された各教科のシラバスとの関係から、大幅に軌道修正することも難しく、実際は年度終盤に時数を確保して授業展開することがようやく出来る状態である。

願わくば、そのような現状であっても、3ヶ年計画で生徒の意識の移り変わりを観察しつつ、最終的には学校全体のバックアップを受けて、世界に目を向ける生徒の育成を継続的に実践したい。

関連する学習指導要領の内容と文言

第2章 総合的な学習の時間の目標

第1節 目標の構成

総合的な学習の時間のねらいや育てようとする資質や能力及び態度を明確にし、その特質と目指すところが何かを端的に示したものが、以下の総合的な学習の時間の目標である。

第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

第1節 指導計画の作成に当たっての配慮事項

- (1) 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと。
- (2) 地域や学校、生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的

- な学習、生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。
- (3) 第2の各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会とのかかわりを重視すること。
 - (4) 育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。
 - (5) 学習活動については、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動、自己の在り方生20き方や進路について考察する学習活動などを行うこと。
 - (6) 各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。
 - (7) 各教科・科目及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。
 - (8) 各学校における総合的な学習の時間の名称については、各学校において適切に定めること。
 - (9) 総合学科においては、総合的な学習の時間の学習活動として、原則として生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習活動を含むこと。

第2節 内容の取扱いについての配慮事項

- (1) 第2の各学校において定める目標及び内容に基づき、生徒の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと。
- (2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
- (3) 自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (4) 体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。
- (5) グループ学習や個人研究などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。
- (6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

●出典・参考図書

- ・第一学習社：最新地理図表 GEO 四訂版
- ・二宮書店：新編地理 A ～ひろがる世界とつながる世界～
- ・帝国書院：図説地理資料 世界の諸地域 NOW2011
- ・開発教育協会 DEAR：ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第4版